



「水田の生物多様性向上」 その取り組みとその歩み

「水田決議」
「田んぼの生物多様性向上10年」
そして
「田んぼの生物・文化多様性2030」へ

呉地 正行 ラムサール・ネットワーク日
本

なぜ 水田なのか？

NEGATIVE Background

- 過去**100**年間で湿地環境が劇的に減少した。
- 多くの自然湿地が水田に変わった。
- 水田の質の変化; 湿田から乾田へ

POSITIVE Background

- 何千年も続いてきた持続可能な歴史を持つ。
- アジア起源で、アジアを代表する農業湿地。
- 利用しながら湿地環境を回復、復元できる可能性。
- ラムサール条約では湿地の一つに分類されている。
- 湿地環境を活かした成功事例; ふゆみずたんぼ など。

背景となる国際条約と「水田決議」

- 水田は湿地機能を持つ農地＝農業湿地
- 農業生産の場だけでなく、生物多様性の向上、水源涵養、微気候緩和など**公益性の高い場所**
- アジアでは理解されるが、国際的な理解が不十分
- RNJが、日本政府などに働きかけ、水田の生物多様性向上をめざす**2つの「国際・水田決議」**を獲得：
 - **1)ラムサールCOP10での水田決議X.31(2008)**
 - － X.31_湿地システムとしての水田の生物多様性の向上
 - **2)生物多様性条約(CBD)COP10の決定X/34(2010)**
 - － ラムサールの水田決議を全て取り込んだ、
農業生物多様性_X/34

田んぼ10年プロジェクト(～2020年)

から



田んぼの生物・文化2030(2021～)

- 国際水田決議を背景に、
- 「国連生物多様性の10年」(2011-20)
 - RNJが提案し、CBD COP10(2010)での決議を経て国連総会で採択
- 「田んぼの生物多様性向上10年」(2013-20)
 - の立ち上げと推進
 - 愛知(生物多様性)目標の田んぼ版
- 後継プロジェクト「田んぼの生物・文化多様性2030」(2021-30)の立ち上げ

- **農業湿地としての水田の重要性について;**
 - アジアモンスーンの気候と調和した、典型的なアジアの湿地。
 - 生物多様性と文化的価値を持つ農法。
 - **伝統的な賢明な利用を行えば、米だけでなく魚類の持続可能な生産が可能。**
 - 微生物から水鳥までの生物多様性に貢献している。
 - 「アジアモンスーン地域の水田は価値ある湿地」という認識を世界に働きかける必要がある。
 - 何千年も続いている水田もある。

ラムサールCOP10での ・水田決議(X.31)採択 (2008年 韓国・昌原市)



決議X.31: 湿地システムとしての
の水田の生物多様性向上

日韓両国のNGOが支援し、両国政府が共同提案して採択。
アジアから世界への
メッセージ

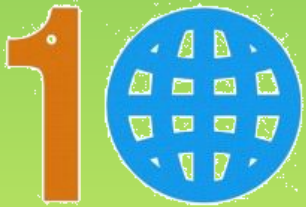
ナイロビのSBSTTAで、
日本政府提案の水田決議
支持発言を行う、CBD
水田部会のメンバー





持続可能な資源としての 田んぼの生きもの

- ・持続可能な農業を支える
農業資源
- ・地域循環型の利用が可能な
食料資源
- ・イネを育てる田んぼで育つ
生物資源
- ・複合生産力の再評価



NGO Initiative for UN
Decade of Biodiversity

「国連生物多様性の10年」 行動計画 (2011-2020)

田んぼの生物多様性向上・10年計画

水田決議
(Ramsar+CBD)

全国計画

地域計画

集落計画

愛知ターゲット;

目標1,3, 4, 7, 8, 9, 11, 14, 17, 18

〔〇〇田んぼ〕の生物多様性向上・10年計画

〔〇〇田んぼ〕の生物多様性向上・10年計画

〔〇〇田んぼ〕の生物多様性向上・10年計画

〔〇〇田んぼ〕の生物多様性向上・10年計画

様々な分野の人々へ、「国連生物多様性の10年」計画への参加呼びかけ

様々な分野の生物多様性向上に関わる長期活動を支援する受け皿

田んぼの生物多様性向上10年プロジェクト (2013-2020)キックオフ集会 小山市で開催 (2013年2月9日)





田んぼの生物多様性向上 10年プロジェクト(2013-2020)



ターゲット;

1 (普及啓発). 4 (消費と生産). 7 (一次産業の営み). 14 (生態系サービス)

- ・ラムサールCOP10とCBD・COP10で採択された水田の生物多様性の決議を、
具体化する取り組みを行う。
- ・賛同者の輪を広げ、10年かけて目標の達成をめざす。
- ・各地での取り組み「田んぼの生きもの調査」「ふゆみずたんぼ」などに関心を持つ市民・農家・団体などに参加を呼びかける。
- ・自治体には生物多様性地域戦略に水田決議の内容を盛り込むよう働きかける。
- ・国レベルでは関係省庁との「水田決議円卓会議準備会」などで、地域の取り組みを支える枠組み作りに努める。
- ・農家・協同組合、地域住民・子ども達を含め、様々な人々による田んぼの生物多様性向上をめざす具体的な行動を支援するアンブレラ・プロジェクト。



POST2020のための 「新」10年プロジェクト

- 2020年に終了する田んぼ10年プロジェクト
- 2020年に立ちあげる「新10年プロジェクト」を議論
- 成果を継承し、新たな視点も組み入れる
- 国連持続可能な開発目標 (SDGs) や生物多様性条約の
新戦略を組み込んだ、新10年プロジェクト
- 国際的な視点も重視し、より広い視点から、田んぼの生物
多様性の主流化を推進
- 田んぼの文化と生物多様性を活かした持続可能な社会作
りのモデルをめざす
- 国内外での普及と、そのグローバル・スタンダード化をめざ
す

田んぼの生物・文化多様性2030プロジェクトキックオフ集会

小山市で開催(2021年12月12日)

